

出典・参考文献の例

<出典表示>

自分以外の者の考えや言葉を利用するときは、その出典を明確にしなければならない。これを怠った場合、盗用行為（＝著作権侵害）とみなされる。

直接引用の場合は当該引用箇所を「 」（引用符）でくくり、通し番号をふった上で、課題研究末尾に「著者」・「文献名」・「発表場所（雑誌名など、WEB ページの場合は URL と参照日）」・「ページ数」を明記しなくてはならない。

<参考文献>

課題研究の中で使用した文献をリストにして、課題研究末尾に掲載する。和書および洋書に区別し、和書は「五十音順」、洋書は「アルファベット順」に著者名を並べる。図書以外の文献も同様に併記する。

<文献別記述例>

【図書】

著者名、『書籍名』、出版社、出版年、（該当ページ：出典の場合）

* 書籍名は、和書は『 』、洋書はイタリック体またはアンダーラインで示す

* 共著の場合は、カンマで区切って記す（東京太郎，東海次郎，近畿三郎，九州四朗）か、最初の1人の著者名のみを記し後ろに「ほか」と記す（東京太郎「ほか」）

【紀要や雑誌の論文・記事】

著者名、「論文・記事のタイトル」、『雑誌名』、巻数・号数、発行年・月、（該当ページ：出典の場合）

* 論文名は、和文は「 」、欧文は“ ”の中に示す

* 雑誌名は、和文は『 』、欧文はイタリック体またはアンダーラインで示す

【WEBページ】

著者名、「WEBページのタイトル」、<URL>、（最終アクセス年月日）

【新聞記事】

署名記事の場合の著者名、「記事のタイトル」、『新聞紙名』発行年月日、朝夕刊の別、（該当面数：出典の場合）

—出典例—

- 1) 茅根 聡，「リースのオンバランス化をめぐる新展開—わが国の改定論議と国際的動向に焦点を当てて—」『JICPA ジャーナル』No. 586，2004年4月，61 ページ
- 2) 加藤盛弘，『一般に認められた会計原則』森山書店，1994年，18 ページ
- 3) Paton, W. A., *Essentials of Accounting*, Macmillan, 1960, p. 213.
- 4) Hofstede, G., *Culture's Consequences*, SAGE Publishing, 1980, pp. 100-101. （萬成博・安藤文四郎監訳，『経営文化の国際比較』産能大，1984，pp. 122-124.）
- 5) 上妻義直，「ECの統合と会計情報」青木修・小川洵・木下照嶽編『社会発展と会計情報～変貌する企業環境への会計的アプローチ～』中央経済社，1993，pp. 210-211.

—参考文献例—

1. Hofstede, G., *Culture's Consequences*, SAGE Publishing, 1980. （萬成博・安藤文四郎監訳，『経営文化の国際比較』産能大，1984.）
2. Paton, W. A., *Essentials of Accounting*, Macmillan, 1960.
3. 上妻義直，「ECの統合と会計情報」青木修・小川洵・木下照嶽編『社会発展と会計情報～変貌する企業環境への会計的アプローチ～』中央経済社，1993年。
4. 加藤盛弘，『一般に認められた会計原則』森山書店，1994年。
5. 茅根 聡，「リースのオンバランス化をめぐる新展開—わが国の改定論議と国際的動向に焦点を当てて—」『JICPA ジャーナル』No. 586，2004年4月。